

第2回 横浜市鴨池公園こどもログハウス指定管理者選定委員会会議録	
日 時	令和8年8月18日（火）14時00分～16時00分
開 催 場 所	都筑区役所5階 第1会議室
出 席 者	中津委員長（関東学院大学/建築・環境学部 准教授） 栗原委員（都筑区連合町内会自治会 副会長（福祉保健担当）） 末広委員（中小企業診断士） 塚原委員（都筑区PTA連絡協議会 前会長） 對馬委員（都筑区主任児童委員連絡会 副代表）
欠 席 者	
開 催 形 態	一部非公開（傍聴者3人）
議 題	1 会議の公開・非公開について 2 選定方法の確認について 3 面接審査 4 採点審査（指定候補者の選定）
決 定 事 項	1 応募資格等の確認及び選定方法の確認、並びに応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。 2 特定非営利活動法人つづき区民交流協会を指定候補者に決定した。 3 委員会の選定結果について、都筑区長に報告することとした。
審 議 内 容	<p>1 会議の公開・非公開について</p> <p>応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。</p> <p>2 選定方法の確認について</p> <p>事務局より採点方法、最低制限基準点及び選定方法についての説明を行った。</p> <p>3 応募団体の面接審査</p> <p>【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】</p> <p>特定非営利活動法人つづき区民交流協会によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答、及び意見・要望があった。</p>

(委員) 利用者数が前年より減少している要因は何か。また、今後の利用者増加策はあるか。

(回答) コロナ後は利用者数が回復傾向にあったが、最近は伸びが落ち着いてきている。協会が運営する 14 施設のうち半数程度で同じ傾向が見られるため、利用者の生活スタイルが安定してきたことも影響していると考えている。一方で、ログハウスはコロナ前の水準にはまだ戻っておらず、特に幼児層の利用が減っている印象がある。今後はイベントの充実や団体利用の拡大によって利用者増加を目指していく。

(委員) ログガーデン整備が中断していた理由は何か。また、再開後はどう進めたのか。

(回答) コロナ禍で地域ボランティアによる活動ができなくなり、整備も停滞していた。再開後は大きな予算をかけるのではなく、スタッフができる範囲で進めながら、地域の協力も得て環境整備を進めていく考え。落ち葉清掃などスタッフだけでは難しい部分もあり、地域との協働が課題になっている。

(委員) 定員を超えるイベント申込みがあった場合はどう対応するのか。

(回答) 講師や材料の準備の都合があるため、基本的には定員を守る必要がある。状況によっては柔軟に対応する場合もあるが、全員を受け入れることは難しい。参加できない場合でも、ログハウスは自由に遊べる施設なので、イベント以外の利用を案内している。

(委員) 多数の施設を運営しているメリットはなにか。

(回答) 協会全体で研修を実施できることが大きい。また、他施設の職員との情報共有や、運営上の課題・工夫を学び合う機会がある。人事異動によって様々な施設経験を積めるため、職員のスキル向上やノウハウの共有にもつながっている。

(委員) ログハウス運営と他施設運営の違いはなにか。

(回答) 基本的な施設運営の考え方は同じだが、ログハウスは利用者の中心が子どもである点が大きな特徴。保護者だけでなく子ども本人とのコミュニケーションを重視し、子どもの声を直接聞きながら運営している。子どもが安心して過ごせる場所づくりを意識している。

(委員) 子どもの遊びや居場所づくりに関する専門研修は実施しているのか

(回答) AED や安全管理、人権、コンプライアンス研修は実施しているが、子どもの発達や遊びの価値、居場所づくりに特化した研修は十分ではない。委員からもその点を指摘され、今後の課題として認識した。

(委員) 学校に行きづらい子どもへの対応はどのようにしてるか。

(回答) 平日の午前中に来館する子どもの中には学校へ行きづらさを抱えているケースもあるが、その理由を深く聞くことはしていない。まずは安心して遊び、過ごせる居場所として受け入れている。必要があれば学校や関係機関と連携しながら見守りを続けていく。

(その他、委員からの主な意見・要望)

- ・ログハウスはイベントを実施する場だけでなく、子どもにとっての日常的な「居場所」としての役割をより重視してほしい。
- ・現在の研修は安全管理やコンプライアンスが中心であり、子どもの遊びや居場所づくりに関する視点が不足しているため、子どもの遊びや発達、ウェルビーイング（心身の健やかさ）に関する専門的な知識を職員が学べるよう、研修を充実させてほしい。
- ・「みんなで楽しく遊ぶ子ども」だけでなく、一人で過ごしたい子どもや学校に行きづらい子どもなど、多様な子どもたちを受け止める居場所づくりを進めて地域の中で支えられるような関係づくりを意識してほしい。
- ・ログハウスが子どもにとって「心のふるさと」となるような施設運営を期待する。

4 採点審査

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の 300 点を超えていることを確認した。

団体名	評点/満点
特定非営利活動法人つづき区民交流協会	432 点/600 点

	<p>(審査講評)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を踏まえた事業展開や関係団体との連携、安定した組織運営体制を有しており、長年にわたり施設運営を担ってきた経験を活かし、安全管理や施設管理が可能で指定管理者として十分な能力を有していると考えられる。 ・地域との日常的な連携を基盤とした事業運営、効率的な運営体制、限られた予算の中での良好な施設維持管理をしており、施設全体が地域の子どもや保護者にとって身近で安心できる居場所として機能している。 ・財務状況のうち、当該団体は、流動比率や正味財産比率が高く、借入金もないことから、財務の健全性・安全性は高いと評価される。また、3期連続で黒字を確保しており、総合的に安定した管理運営が期待できる団体である。 ・今後は、多様な年齢層の子どもが安心して利用できる環境づくりや、利用者ニーズを踏まえた事業のさらなる充実、子育て支援に関する情報発信や地域内外との連携の拡充に取り組むことで、施設の役割がさらに高まることを期待する。 ・施設の経年化を踏まえた安全対策の継続や、人材育成・組織運営体制の強化に取り組み、地域の子どもたちの健全育成と交流の拠点として、より一層の発展を期待したい。 ・総じて、同法人はこれまでの実績と運営能力を十分に備えており、地域の子どもたちの健全育成と交流の拠点として、今後も安定的かつ発展的な施設運営が期待できるものと評価する。
資 料	<p>(資料1) 第2回選定委員会タイムスケジュール</p> <p>(資料2) 評価・採点方法について</p> <p>(資料3) 評点表</p> <p>(資料4) 採点審査について</p>